

# Time



## ニーズに足る仕組み整備を

ホテルもバリアフリー対応

が当たり前という時代。ネット検索で「バリアフリー」「宿」などとキーワードを入れてみれば数千万件がヒットする。

障害がある人にとっては、インターネットの普及が旅の夢をかなえてくれる玉手箱となった。居ながらにして世界中の情報が入手できる。

しかし、バリアフリー情報と一口に言っても個別ニーズにどこまで対応できるのか。情報の正確さ、使い勝手はまだ十分とは言えない。

小さな旅なら、交通手段や食事場所、トイレの情報で事足りる。しかし、遠出しようと考えたときには、宿泊先の詳しい情報が必要となる。

かつては、車椅子で泊まれる宿の情報を得るのは至難の業だった。ガイドブックを参考に片っ端から電話をかけ、ようやく見つけたのに行ってみたら使えなかったという話は少なくない。

体が不自由な人が欲しい情報は、その人が必要なサービスが得られるか否かだ。そのため、依頼があれば観光地にいるトラベルヘルパーが宿の下見をすることもある。公共の宿や観光協会などは、こうしたことをサービス機能として高めていってほしい。

社団法人全国脊髄損傷者連合会は、インターネット版「全国車いす宿泊ガイド」で全国の宿泊施設のバリアフリー情

報を写真付きで紹介しており、同じ障害を持つ人なら信頼を置ける。

一方、小さな温泉街や観光地なら、共用で福祉機器のレンタルや介助者のあっせんシステムを用意すれば、街全体のイメージアップにつながる

り、地域の高齢者の利用を取り込むこともできる。

岐阜県高山市は熱心に取り組んでおり、静岡県東伊豆町、山形県最上町もモデル作りを開始。宿坊のある東京都青梅市にもこうした動きがある。

また、ネットの宿泊施設ガイドは動画を使ってほしいと思う。駐車場から玄関ロビー、受付カウンターから客室、さらにダイニングや風呂場まで

の道筋で、段差や距離がどの程度あるか分かるからだ。

宿泊については情報を地域ごとに更新し、内容を精査す

る仕組みは弱い。行政はこうした整備にも力を入れてほしい。(日本トラベルヘルパー協会理事長・篠塚恭一)

の道筋で、段差や距離がどの程度あるか分かるからだ。

宿泊については情報を地域ごとに更新し、内容を精査す

る仕組みは弱い。行政はこうした整備にも力を入れてほしい。(日本トラベルヘルパー協会理事長・篠塚恭一)



車椅子の結婚式に積極的なホテルもある＝沖縄県宜野座村

### 宿泊施設のバリアフリー情報